

(第一千三百七十五條)

事務管理ハ管理者ヲシテ義務ヲ負ハシムルノミナラス時トシテ本人ヲシテ義務ヲ負ハシムルコトモアル可キハ第一千三百七十一條ニ於テ余ノ既ニ説明シタル所ナリ即チ本條ハ本人ヨリ事務管理者ヘ盡ス可キ義務ニ關スルモノトス而シテ其義務左ノ如シ

第一 事務管理者本人ノ名義ヲ以テ約シタル義務ヲ履行スルコト○茲ニ法律ハ管理者其身ニ引受ケス本人ノ名代コトテ約シタル義務ヲ想像シタルモノニシテ譬ヒハ本人不在中本人ノ家宅洪水若クハ地震ノ如キ變災ノ爲メ崩壞セントスルコ際隣人之チ氣毒コ思ヒ相當ノ職工ヲ呼ビ右家宅保存ニ必要ノ事務ヲ爲セヨ余ハ本人ニ代テ依頼スルモノナリ本人歸宅ノ上ハ汝等ニ其費ヲ拂フ可シト述ヘ而シテ職工之チ諾シタル場合ノ如シ斯ノ如キ場合ニ於テハ其義務者ハ本人コシテ管理者ニ非ス管理者ハ唯其時ノ單一ナル指圖人タルニ過キサルナリ

第二 管理者其身ニ引請テ果シタル義務ヲ賠償スルコト○茲ニ前例ニ據テ之チ説明センコト右ノ職工其隣人ニ答テ曰ク「我等貴下ノ命ニ背カサル可シ然レトモ右家宅ノ所有者何レノ時ニ歸宅アルヤモ知ル可カラス故ニ我等ハ貴下自カラ此家宅ノ保存修復ヲ擔當セラレンコトヲ希フモノナリ」ト而シテ隣人其求メテ諾シタル場合ノ如シ斯ノ如キ場合ニ於テハ其職工ニ對スル義務者ハ隣人即チ事務管理者ニシテ家宅所有者ニ非ルナリ故ニ其義務ノ爲メ管理者ノ受ル損害ハ本人ヨリ賠償セサル可カラサルナリ

第三 事務管理中管理者ノ爲シタル有益且必要ノ費用立替テ償還スルコト○譬ヒハ前例ノ場合ニ於テ其修復ニ必要ナル材木若クハ瓦等ヲ買得シタルカ如シ其立替代價ハ本人ヨリ管理

者ヘ償還セサル可カラサルナリ

第四 管理者ノ立替ヘタル日ヨリ起算シテ其立替金ノ利子ヲ拂フコト○此義務ハ本條ニ明記シテアラスト雖モ事務管理ノ有益ナル場合ニ於テハ代理ト全ク同視ス可キモノナルヲ以テ則チ第一千一百一條ニ據リ斷シテ斯ノ如ク余ハ論決スルモノトス

(第一千三百七十六條)

本條ヨリ以下第一千三百八十一條ニ至ルマテハ不當ノ辨濟ニ關スルモノトス
不存ノ義務ヲ履行シタルキハ其履行即チ辨濟ハ無原山ノモノナルヲ以テ之チ受領シタル者ハ錯誤ニ出タルト故意ニ出タルトチ問ハス其辨濟ヨリ得タル利益ヲ保持スルノ權利ヲ有セサルコトハ素ヨリ論ヲ待タサルナリ此レ其己レニ受領ス可キ權利ナクシテ辨濟ヲ受領シタル者ハ之チ返還スルノ義務ヲ負ヒ而シテ其辨濟ヲ爲シタル者ハ之チ取戻スルノ權利ヲ有スル所

以ナリ
(第一千三百七十七條)

然レトモ本條ニ據レハ辨濟者錯誤ニ因テ其辨濟ヲ爲シタルキニ非レハ其受領者ニ對シ之チ取戻ス權利ヲ有セサルナリ何トナレハ本條ニ「錯誤ニ因リ自カラ義務者ト思考シテ云々」トアルヲ以テナリ故ニ不當ノ利得ヲ取戻ス爲メニハ辨濟者ノ方ニ錯誤アリタルコトヲ必要トス是レ他ナシ自カラ義務者ヲラサルコトヲ知テ他人ニ物ヲ辨濟スル者ハ或ハ他ノ義務者ノ爲メ代償スル者ナルカ否ラサレハ名ヲ辨濟ニ借リテ其實一種ノ贈與ヲ行フノ意ニ外ナラサレハナリ

右ノ理由ナルヲ以テ不當ノ辨濟ヲ取戻サンヲ求ムル者ハ左ノ件々ヲ證明セサル可カラズ

第一 辨濟シタルヲ〇其證據ハ供證普通ノ規則ニ據ル可キモノトス

第二 其辨濟セント欲シタル義務ハ民法上ニ於テモ自然上ニ於テモ成立セザリシモノナル
一〇此證據ハ實際甚タ困難ナルヲアル可シ然レトモ辨濟物ノ受領者ニ「貴下ハ余ニ如何ナル義務アルモノトシテ余ノ辨濟ヲ受領セラレタルヤ」ト問ヒ其答ニ因テ義務ノ不成立ヲ證明スルヲ得ヘシ而シテ其義務ノ不成立ニ付テハ屢々書面ノ證據ヲ得ルヲ難カル可キヲ以テ總テノ方法ヲ以テ之ヲ證明スルヲ得ヘシ(第千三百四十八條參看)

第三 其辨濟ハ錯誤ニ出タルヲ〇錯誤ハ人證若クハ其他總テノ方法ヲ以テ證明スルヲ得ヘシ何トナレハ錯誤ニ書面ノ證據アル可キ理由アレザレハナリ

又本條ノ第二項ハ辨濟ノ錯誤ニ出タル場合ト雖モ其辨濟物取戻ノ權利消滅スル場合ヲ規定シタルモノトス而シテ其場合ハ他人ノ負擔ス可キ義務ヲ辨濟者自カラ負擔ス可キモノト錯誤シテ之ヲ辨濟シ權利者モ亦其情ヲ知ラズシテ之ヲ受領シ且自己ノ權證ヲ毀滅シタルト係ルモノトス實ニ此場合ニ於テハ其辨濟ヲケレハ權利者素ヨリ己レノ權證ヲ毀滅シタルモノニ非ス辨濟者ノ錯誤ノ爲メ事茲ニ及ヒタルモノナレハ辨濟者自己ノ錯誤ヲ以テ權利者ニ損害ヲ加フルヲ得ス故ニ之ヲ取戻スヲ許サズシテ唯眞ノ義務者ニ係リ其辨濟高ヲ取戻スヲ得ルニ止マルモノトス

(第千三百七十八條)

右ノ如ク權利者ヲ保護スルハ其善意ナルト限ルモノニシテ若シ其辨濟者眞ノ義務者トシ

サルヲ知リ即チ惡意ニテ之ヲ受領シタルト自己ノ權證ヲ毀滅シタルト否ヲサルトト問ハズ管ニ其受領高ヲ返還ス可キノミナラス尙ホ其受領ノ日ヨリ起算シテ之カ利子又ハ果實ヲモ返還スルノ義務アルモノトス何トナレハ他人ノ錯誤ヲ故ラニ利益スル者ハ法律ノ最モ惡ム所ナレハナリ

(第千三百七十九條)

本條モ亦善惡ヲ以テ辨濟物ヲ受領シタル者ト惡意ヲ以テ之ヲ受領シタル者ト其處分上相ヒ異ナル點ヲ指示シタルモノトス即チ左ノ如シ

第一 善意ヲ以テ不動産若クハ動産ヲ受領シタル者ハ自己ノ過失アリタルト非レハ其責メニ任セテ決シテ天災ノ責メニ任セサルモノトス故ニ其物件自己ノ手ニ存在スル間ハ其儘之ヲ返還シ若シ又其物件自己ノ過失若クハ懈怠ニ因リ消滅シ又ハ毀損シタルトハ其價格ヲ返還スルニ止マリ決シテ天災ニ起因シタル滅失ノ責メニ任セサルモノトス

第二 惡意ヲ以テ其物件ヲ受領シタル者ハ自己ノ過失ハ勿論天災ノ責メニ任スルモノトス故ニ其物件天災ニ因リ消滅シタルト雖モ之カ賠償ヲ爲サ、ル可カラズ然レモ其物件假令辨濟者ノ手ニ在ルモ右ノ天災ヲ免カレザリシ場合ニ於テハ受領者之カ責メニ任セサルモノトハ蓋シ斯ノ如キ場合ニ於テモ尙ホ其責メニ任スル者ハ特リ盜賊ニ限ルモノナリ(第千三百二條參觀)惡意ノ受領者ハ惡ム可シト雖モ未ダ以テ盜賊ト同視スルニ至ラザレハナリ

(第千三百八十條)

但シ又善意ヲ以テ其物件ヲ受領シタル者之ヲ他人ニ賣渡シタルトハ辨濟者其受領者ニ對シ

賣渡シ代價ヲ請求スルニ止マルモノトス是他ナシ其受領者ハ不當ノ利得ヲ保有スルノ權利
ヲ有セサルノミナレハナリ之ニ反シテ若シ其受領者惡意ナルキハ之ニ對シ當ニ其賣渡シ代
價ヲ請求スルヲ得ルニミナラス其物件ノ實價ヲ請求スルヲ得ルモノトス
不當ノ辨濟者ハ其物件受領者ニ對シテ之ヲ取戻スノ權利ヲ有スルノミニシテ其物件ヲ買得
シタル第三獲得者ニ對シテ之ヲ取戻スヲ得サルヤ之ヲ略言スレハ不當辨濟物取戻權ハ人
權ナルヤ將タ物權ナルヤ

余ハ斷シテ之ヲ物權ト思考スルナリ何トナレハ其引渡ス可キ義務ナクシテ之ヲ引渡スモ決
シテ受領者ノ爲メ所有權移ラヌ其所有權移ラサル物ヲ第三ノ人ニ賣渡シタルキハ是レ他人
ノ所有物ノ賣買ニシテ法律ノ禁スル所ナレハナリ故ニ不當ノ辨濟者ハ第三ノ獲得者ニ係リ
其物件ヲ取戻スヲ得ヘシ而シテ第三ノ獲得者之カ爲メ損害ヲ受ルキハ賣主即チ不當ノ受
領者ニ係リ其賠償ヲ求ム可シ而シテ又受領者ハ素ト善意ノモノナレハ辨濟者其始メ錯誤シ
タルカ故今日此賠償ノ責メニ任スルニ至リタルモノナルヲ以テ之ヲ辨濟者ニ負擔セシムル
ヲ得ヘシ之ニ反シテ受領者素ト惡意ノモノナレハ其賠償ヲ自カラ負擔セサル可カラサル
ナリ何トナレハ一方ニ惡意アリテ他ノ一方ニ錯誤アリタルキハ常ニ錯誤者ヲ保護ス可キハ
法理ノ元則ナレハナリ但シ右ノ論決ハ總テ第二千二百七十九條ヲ適用ス可カラサル場合ニ
限ルモノトス

(第千三百八十一條)

不當ノ辨濟者ハ其辨濟物ヲ取戻スノ權利ヲ有スト雖モ素ヨリ得利手段トナル可キ謂レナシ故

ニ其物件保存ノ爲メ受領者ノ要シタル費用ハ辨濟者ヨリ償還セサル可カラヌ而シテ此場合
ニ於テハ受領者ノ善意ナルト惡意ナルトヲ區別スルコ及ハサルモノトス何トナレハ一方ノ
惡意ハ他ノ一方ノ得利原由トナル可キモノニ非レハナリ此レ本條ノ規定スル所ナリトス

(第二章) 犯罪及ヒ准犯罪

(第千三百八十二條)

總テ人ノ所爲ニシテ他人ニ損害ヲ及ホスルハ常ニ其行爲者之ヲ償フノ責メニ任スルモノニ
非ス凡ソ權利ノ執行ニ係ル所爲ハ如何ナル損害ヲ他人ニ加フルト雖モ毫モ賠償ノ義務ヲ生
スルモノニ非ルナリ譬ヒハ正當防禦權ノ執行ニ因テ敵手ヲ殺害シ若クハ我カ所有地内ニ高
樓ヲ建築シタル場合ノ如シハ人命ヲ絶チニハ隣家ノ眺望ヲ奪フナリ然レトモ二箇共ニ權
利ノ執行ニ出ルモノナルカ故ニ被害者ヨリ余ニ對シテ其損害賠償ヲ毫モ請求スルヲ能ハサ
ルナリ

此ニ由テ之ヲ觀レハ其所爲タルヤ行爲者ノ權外ニ出タルキニ非レハ之ヲシテ損害賠償ノ責
メニ任セシムルヲ得サルモノトス然ルニ本條ニ於テ「總テ人ノ所爲ニシテ其何タルヲ問
ハス他人ニ損害ヲ及ホスモノハ云々」トアルハ法文ノ欠點ヲ免カレサルモノト云フ可シ若
シ余ヲシテ立法官タラシメハ必ス「不正所爲」ト記載ス可シ何トナレハ權外所爲ニ非レハ不
正ト名稱スルヲ能ハサルヲ以テナリ

(第千三百八十三條)

本條ハ前條ノ未ダ盡サ、ル所ヲ補充センガ爲メニシテ前條ノミコテハ懈怠又ハ不注意ヨリ

何事モ爲サシテ他人ニ及ホシタル損害ハ賠償ヲ要セサルノ結果ニ至ル可シ何トナレハ前條ニ於テハ唯所爲トノミアレハナリ是レ本條ニ於テ何人ニ限ラス當ニ其所爲ヨリ及ホシタル損害ノミナラス尙ホ其懈怠又ハ不注意ヨリ及ホシタル損害ニ付テモ其責メニ任ス可キモノト定メタル所以ナリ

右ノ所爲、懈怠及ヒ不注意ノ三件中如何ナルモノハ犯罪ヲ組成シ又如何ナルモノハ准犯罪ヲ組成スルヤヲ説明ス可シ

凡ソ民法上謂フ所ノ犯罪及ヒ准犯罪ハ三條件ヲ以テ組成スルモノトス即チ左ノ如シ

第一 不法ナルヲ○此條件ハ前條ニ於テ説明シルヲ以テ茲ニ再ヒセス

第二 本人ノ責メニ歸ス可キモノナルヲ○蓋シ何人ニ限ラス其所爲、懈怠若クハ不注意ノ責メニ任ス可キハ特ニ之ヲ避ルヲ得タルニ避ケサリシカ爲メナリ故ニ白痴瘋癲者若クハ抗拒ス可カラサル場合ニ於テ人ノ加ヘタル損害ハ其責メニ歸スル能ハサルナリ此點ニ於テモ法文ハ廣キコ失シタルモノト云フ可シ何トナレハ何人ニ限ラスト云ヒハ白痴瘋癲者モ其中ニ包含ス可キヲ以テナリ

第三 實際他人ニ損害ヲ加ヘタルヲ○如何ナル不法ノ所爲ト雖モ他人ニ損害ヲ加ヘサルハ賠償ス可キ損害ナシ賠償ス可キ損害ナケレハ民法ニ云フ所ノ犯罪モ准犯罪モアラサルナリ何トナレハ民法上ニ於テ犯罪又ハ准犯罪ヲ義務ノ一原由トシテ論スルモノナレハ其義務ヲ生セサル場合ニ犯罪アル可キ理由アラサルヲ以テナリ

不法、歸責、及ヒ損害ノ三條件具備シタル以上ハ茲ニ民法上ノ犯罪若クハ准犯罪ノ存スルモ

ノトス然レトモ未ダ以テ犯罪ト准犯罪トノ區別ヲ指示セズ而シテ其區別ハ惡意ノ有無ニ基礎スルモノトス故ニ其三條件具備シタル所又ハ欠爲ハ本人ノ惡意ニ出タルモノナレハ犯罪ヲ組成シ若シ又惡意ナク懈怠又ハ不注意ニ出タルモノナレハ准犯罪ヲ組成スルニ過キサルモノトス

此犯罪ト准犯罪トノ區別ハ損害賠償高ノ量定上ニ重要ノ關係ヲ有スルモノナリ(第千百五十條ノ説明ヲ參照ス可シ)

茲ニ民法上ノ犯罪及ヒ准犯罪ト刑法上ノ犯罪トノ區別ヲ略言ス可シ

純粹ナル民事犯トハ民法ノ禁スル所ナリト雖モ刑法ノ罰セサル所爲ニシテ唯他人ニ損害ヲ加フルモノヲ云フナリ譬ヒハ他人ノ不動産ヲ僞テ賣買シタル場合ノ如シ(第二千五十九條)此所爲ハ純粹ナル民事犯罪ナリトス何トナレハ佛國刑ニ於テ之ヲ罰セサレハナリ

又他人ニ損害ヲ加ヘサル所爲ト雖モ刑法上罰スルモノナレハ其所爲ハ刑事犯罪ニシテ民事犯罪ニ非ルナリ譬ヒハ重罪未遂犯ノ過半ニ於ルカ如シ(刑法第二條參看)

又他人ニ損害ヲ加フル所爲ニシテ刑法上罪トスルモノハ民事犯ト刑事犯トノ兩性質ヲ兼有スルモノトス譬ヒハ人身又ハ財産ニ對スル一切ノ既遂犯ニ於ケルカ如シ

然レトモ刑法上ニ於テハ犯罪トナリテ民法上ニ於テハ准犯罪ヲ組成スルニ過キサルモノアラナリ即チ刑法上惡意ヲ以テ犯シタルヲ要セスシテ罰スルモノ是ナリ譬ヒハ過誤殺傷是ナリ(刑法第二百十九條參看)

茲ニ一箇ノ不正所爲アリ其所爲ハ純粹ノ民事犯ヲ組成スルモノナルヤ將タ民刑犯罪ノ兩性

ヲ兼有スルモノナルヤチ區別スルハ賠償ノ訴權期限上ニ於テ一大重要ヲ有スルモノトス
 民刑犯ノ兩性質ヲ兼有スル所爲ニ對スル損害賠償ノ訴權ハ公訴權ノ期滿免除ニ因リ等シク
 期滿免除スルモノトス故ニ其所爲重罪ナレハ十年輕罪ナレハ三年又違警罪ナレハ一年ニ因
 テ消滅スルナリ(治罪法第六百三十七條第六百三十八條及ヒ第六百四十條參看)之ニ反シテ
 其所爲タルヤ純粹ナル民事犯罪ヲ組成スルモノナレハ之カ賠償ヲ求ムルノ訴權ヲ民法普通
 ノ期滿免除即チ三十年ノ後ニ非レハ消滅セサルモノトス(民法第二千二百六十二條參看)

(第千三百八十四條)

凡ソ人タル者ハ自己ノ所爲ヨリ他人ニ及ホシタル損害ノ責メニ任ス可キノミナラス尙ホ其
 擔當ノ可キ人ノ所爲若クハ監守ス可キ物件ヨリ他人ニ及ホシタル損害ノ責メニ任ス可キ
 モノトス然レトモ此責任ハ法文ニ見ユルカ如キ純粹ナル他人ノ所爲若クハ物件其物ニ基礎
 レテ設ケタルモノニ非スシテ自然其擔當者又ハ監守者ノ懈怠或ハ不注意ニ基礎シテ設ケタ
 ルモノナリ尙ホ其理由ハ以下ニ於テ見ル可シ

- 第一 父ハ之ト同居スル其幼年ナル子ノ他人ニ加ヘタル損害ノ責メニ任ス其父不在ナレハ
 母モ亦同一ノ責メニ任ス是他ナシ其父母ノ教育方不行届ニ出タルモノト看做スヲ以テナリ
- 第二 雇主及ヒ人ヲ使用スル者ハ其雇人及ヒ使用人ノ主務執行ノ際ニ犯ス有害所爲ノ責メ
 ニ任ス是レ他ナシ朋友ヨリ其僕婢ヲ余カ家ニ遣レハ余安心シテ之ヲ余カ家宅内ニ往來セシ
 ムルハ余其僕婢ヲ信スルカ故ナラス余カ朋友ヲ信スルカ故ナリ然ルニ其僕婢ノ所爲ヲ以テ
 余ニ損害ヲ加フレハ朋友其僕婢ノ撰擇ニ不注意アリシモノナルヲ以テ之カ責メニ任セサル

可カラサルモノトス然レトモ「主務執行上」ノ法文ヲ注目セサル可カラス僕婢ト雖モ主務外
 ニ於テハ彼我同シク自由ノ民ナリ雇主ハ常ニ之ヲ監督スルノ權利モナク又義務モアテス故
 ニ主務外ニ於テ自由ノ民人タル資格ヲ以テ他人ニ加ヘタル損害ニ付テハ雇主毫モ其責メニ
 任ス可キ理由アラサルナリ

本條ノ第四項ハ父母其子ノ所爲ニ付キ責メニ任スル場合ト理由ヲ同ウスルモノナレハ別段
 爰ニ贅言セス

又本條ノ末項ハ余ノ始メニ述ヘタル如ク畢竟擔當者ニ懈怠又ハ不注意アリタルモノト看做
 シテ之ニ責任ヲ負ハシムルモノナルヲ以テ若シ其擔當者ニ於テ監督上懈怠モアラサリシコ
 ヲ證明スル以上ハ右ノ責任ヲ免カル可キモノナルコトヲ指定シタルモノトス

(第千三百八十五條及ヒ第千三百八十六條)

右ニケ條ニ於テ物件所有者其物件上ヨリ他人ニ及ホシタル損害ノ責メニ任ス可キノト定
 メタルハ他ナシ其所有者ニ右物件監督上過失若クハ不注意アリタルモノト法律ニ於テ推測
 スルヲ以テナリ故ニ茲ニ於テモ亦所有者ヨリ反證ヲ供シテ其責任ヲ免カルコトヲ得可キハ
 論ヲ待タサルナリ而シテ第千三百八十五條ニ於テ又ハ獸類ヲ用ユル者云々トアルヲ以テ
 右ノ責任ハ其所有者ノミナラス借用者ノ如キ者モ亦負擔ス可キノトス加之總テ獸類ヲ監
 守スルノ義務ヲ有スル者モ亦同一ナリトス譬ヒハ獸類受托者ノ如キ是ナリ
 然レトモ建築物ニ關シテハ其所有者ニ非レハ其崩壞ノ爲メ他人ニ及ホシタル損害ノ責メニ
 任セサルモノトス何トナレハ家屋借用人ノ如キハ其家屋保理ノ義務ヲ負ハサルモノナレハ

ナリ但シ特別ノ約束ヲ以テ其義務ヲ負擔シタルキハ格別ナリトス 終止

日本 法律學士磯部四郎

佛國契約篇講義終

明治十七年十二月十八日出版
明治十九年九月

講義者

富山縣士族

磯部四郎

富山縣士族

木村乾次郎

東京府平民

小島官吾

群馬縣士族

戶所芳泰

東京府平民

好見祐次

鳥取縣士族

森平藏

東京府平民

島巨邦

京橋區南紺屋町拾貳番地

出版人

明治十七年十二月十八日板權免許 定價金八十五錢
明治十九年九月 出版

講義者

富山縣士族

磯部 四郎

京橋區築地貳丁目
拾九番地

出版人

東京府平民

島 巨 邦

京橋區南紺屋町
拾貳番地



發兌所

京橋區南紺屋町拾貳番地

泰東法律學校

京橋區弓町廿四番地

同

耕文社

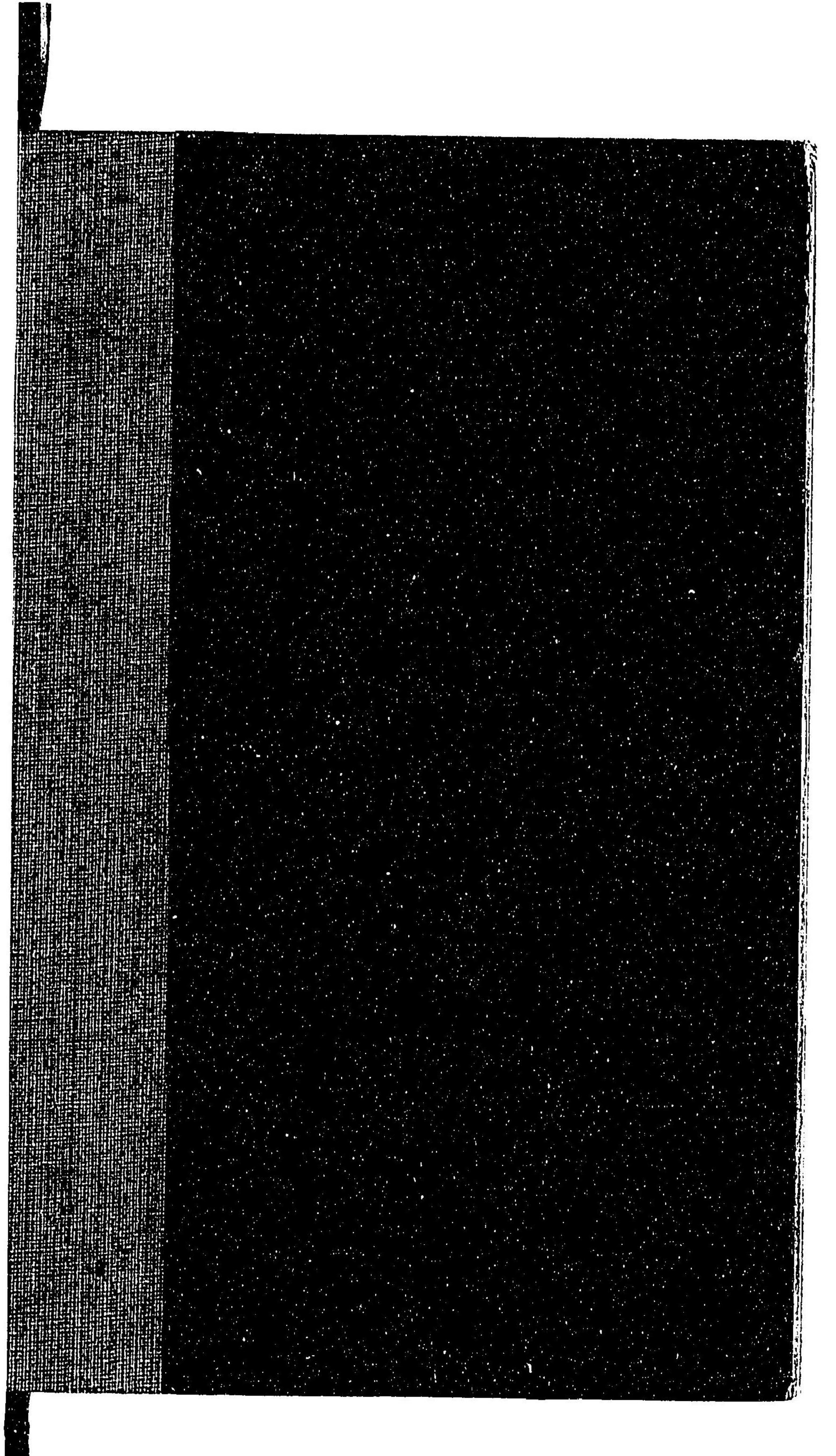
7-2273
5

大賣捌所

東京銀坐四丁目	博聞本社	東京神田雉子町	團々社支店
全 日本橋通三丁目	丸善商社	全 日本橋通壹丁目	大倉孫兵衛
全 日本橋通壹丁目	須原屋茂兵衛	全 日本橋西河岸町	須原鐵二
全 神田美土代町	明法堂	全 南傳馬町貳丁目	有隣堂
全 湯島切通	南江堂	全 神田淡路町	巖々堂
全 芝柴井町	松井忠兵衛	大阪備後町四丁目	吉岡平助
大阪安土町四丁目	花井卯助	全 心齋橋南壹丁目	松村九兵衛
全 北久寶寺町	叢書閣	全 本町四丁目	岡島真七
全備後町四丁目	梅原龜七	西京東洞院三條上ル	村上勘兵衛
西京寺町四條上ル	田中治兵衛	全 四條小橋西へ入	澤集光堂
名古屋本町八丁目	片野東四郎	名古屋本町三丁目	川瀬代助
北海道函館	魁文社	駿州静岡江川町	廣瀬市藏
肥後熊本	長崎次郎	薩州鹿兒島	吉田孝平
筑前福岡簀子町	林斧之助	土佐高知種崎町	澤木駒吉
備前岡山東中山下	大島勝海	美濃大垣岐阜町	岡安慶助

29

37



29

37

034421-000-0

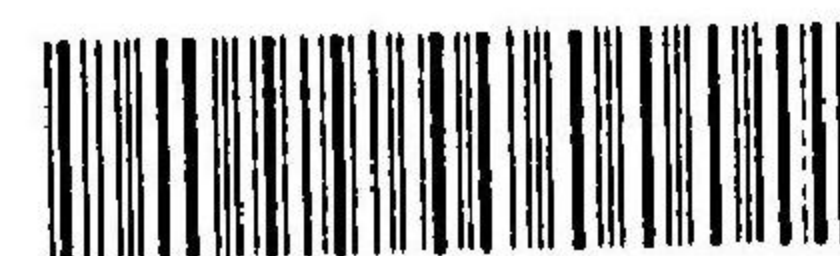
29-37

民法契約篇講義

磯辺 四郎 / 述

M19

BBL-0976



25-781